

長野県（松くい虫被害の見える化（マップ））による市町村支援

- ▶ 長野県における松くい虫被害は、昭和56年度の確認以来、年々増加し、平成25年度には、過去最高となる約7万8千m³となった。令和3年度においては、約5万1千m³と減少傾向ではあるが、依然全国最大の被害量となっている。
- ▶ そこで、令和2～3年度に、アカマツ林の松くい虫被害が俯瞰的に見える「松くい虫被害マップ」をベースに500mメッシュに区切り、メッシュごとに未被害、微害、拡大激害の4段階の被害レベルに分類した「松くい虫被害レベルマップ」及び、マツノマダラカミキリの移動範囲を想定し先端区域等を定めた「地域区分図」を全県で作成した。
- ▶ 令和4年度は、作成した「松くい虫被害レベルマップ」「地域区分図」の市町村担当者向けの研修・利活用促進を進める。

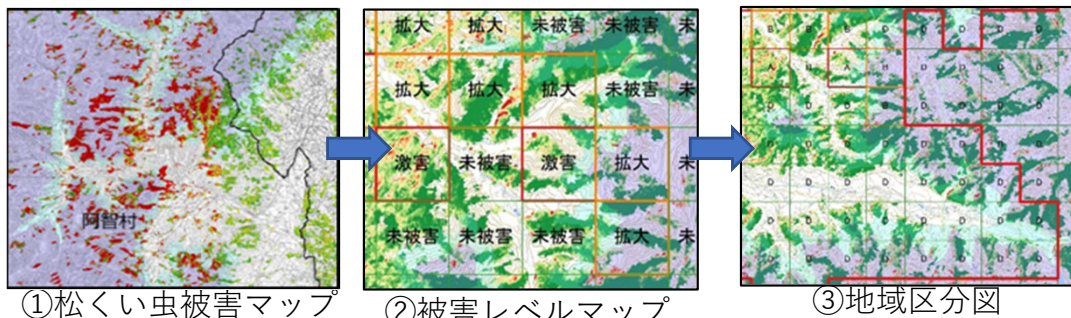
事業内容

松くい虫被害地域森林経営管理対策支援事業

- ・ 松くい虫被害レベルマップ・地域区分図の作成

【事業費】17,580千円（うち譲与税17,580千円）※R3年度

【実績】長野県全域で作成、該当市町村に配付



工夫・留意した点

- ・ 長野県の全域を網羅するレベルマップ等を作成する必要があったことから、航空レーザ測量と衛星写真を活用し、広域的に抽出を行った。
- ・ 松くい虫被害の拡大スピードが速いことから、継続的に利用できるように、レベルマップ等の更新の行いやすさに考慮した。

基礎データ

①令和3年度譲与額	186,668千円
②私有林人工林面積（※1）	201,108ha
③人口（※2）	2,048,011人
④林業就業者数（※3）	2,688人

※1：「2020農林業センサスより」、※2：「R2年国勢調査」より、※3：「H27年国勢調査」より

事業スキーム

1 松くい虫被害レベルと防除対策

松くい虫被害レベルとそれぞれの場所・場面（松林区分）を重ねることで、下表のような効率的・効果的な対策の推進、対策の「見える化」を図ることが可能となる。

被害レベル	未被害	微被害	拡大	激害
松林区分	未被害	微被害	拡大	激害
守るべき松林	予防【高知能者（アスクコミュニケーション等）】	予防【高知能者（アスクコミュニケーション等）】	伐倒・駆除	松林区分の良質し被害域内発生集約等 枯損木利活用など
重要な保安林 （重要地区・指定地工事 被害防止対策等）	保安林整備（治山事業）	樹種転換	保安林整備（治山事業） 樹種転換（枯損木等伐採・移動）、土留工事	
周辺松林		伐倒駆除、樹種転換		被害域内発生集約等 枯損木利活用など
その他松林	樹種転換	樹種転換		
道路等ワイファイの劣化対策 （上記区分にかかわらず）			枯損・危険木処理 等	
	全国統一的な支援（国庫補助金）		県独自の支援（新技術）	

2 地域区分図と施業指針

地域区分から、アカマツの伐採や移動に必要な条件を判断し、条件付きで伐採する区域や、通年伐採が可能な区域の「見える化」を図ることが可能となる。

3 市町村が行う松くい虫被害防除事業の支援

地域からの松くい虫対策の要望に対し、優先的に実施する場所の説明が本事業の成果からできる。

森林経営管理制度に基づく森林所有者の意向調査で、市町村に管理を任せられた森林（アカマツ林）に対する説明責任が果たせる。